●本誌は日本に於ける婦人運動の先驅也

世界婦人

●本誌を讀まざる者は婦人に非ず

議員諸君に與ふ

衆議院議員諸君、諸君今や大命の下に悉く集つて帝都に在り。去んぬる二十一日議事の開始せられてより已に旬日、元より諸君當然の責務なりとは云へ、日日國事の細大に參して、正論高議日も猶足らざるが如きは吾等の衷心より感謝する所也。諸君は誠に天下の選良、所謂戰後經營の如き重大事は論なし、其他の瑣小事と雖ども、事苟くも國利民福に關する以上、これが討議に毫末の油斷なかるべきは吾等の疑はざる所也。茲に會期の始に當り、聊か諸君に訴へて諸君の一考を煩はさんと欲するものあり、寛宏なる諸君の必らずや聽許せらるべきを信ず。

諸君、日露戰爭其局を收めてより、選擧權擴張運動が俄然として勃興し來りしは諸君の熟知する處ならん、爾來學者の之を説き議者の之を論ずる者日一日と増加し、林田氏の如きは案を具して世に問ひしこと既に數回に及べり。是れ戰爭の悲劇に因る國民の悲慘なる勞苦に刺撃せられたるものにして誠に當然の數と謂ふべき也。獨り怪しむ、之と時を同ふして「婦人の自由」に關する片言隻語をだも聞くことなかりしを。

日露戰爭の間、諸君の制定せし治安警察法なるもの、濫用によりて、社會主義の學術演説會が至る處警官の臨監を忝うし解散に次ぐに解散を以てせし時、同じき治安警察法に於て未成年者無能力者と同一視せらるゝ、婦人が、堂々愛國婦人會なるものを組織して、全國を席巻し、縱横の雄辯を振つて大に國用を輔け、志氣を鼓舞せしは未だ諸君の耳目に新たなる所にして、諸君も亦其偉大なる効績を稱賛するに於て敢て人後に落ちざるべし今や同會員の數勝て數ふべからず、華街陋巷至る處として其證札の掲げられざるはなし。而して猶未だ此笑ふべき治安警察法の改正せられざるは何ぞや。

諸君、吾等婦人は或は覺らずして或は自ら覺りつゝ、久しき間男子の壓制の下に泣きたりき。而して吾等は常に蒼顏家を守るに專らにして、門を出で、世の生氣に觸るゝ事稀に、心鬱し氣屈して、自ら其運命に服し來りし也。然れ共天は遂に吾等を棄てず、革新の機運はあらゆる方面より吾等を促がして、或は愛國婦人會に、或は慈善事業に、或は救世軍に或は赤十字に、或は社會主義運動に、或は官途に、社會のあらゆる位地に於て其特殊の技倆を振はしむるに至れり。嗚呼此時に當つて此の治安警察法改正請願の出づる誠に必然の結果に非ずや。吾等は寧ろ其自由の餘りに小ならんを怖るゝ也

夫れ國に力ある政治家の多く出でんことは諸君の造次にも祈願し給ふ處、又今日の如き幼稚なる國民に政治思想の傳播普及せんことも亦諸君の切望し給ふ處也竊に思ふに諸君の願望の達せらるべき最良の方法は家庭に於ける教育也。家庭教育は主として其母たる人の掌裏に握らる然らば即ち婦人をして政治的集會に出席せしめざるが如きは諸君の願望を達する所以に非る也。

吾等の見る處に依れば男子の性質に剛柔幾多の差別あるが如く、女子をもたゞ一概に可弱き者と斷じ去る可きに非ず。其男性的なるもの、活動に適せし者は宜しく其本性を發揮せしめて、諸般の事業に關與せしめ以て社會に貢献する處あらしむべき也。

歐米先進の諸國は既に茲に見る處あり、何處に行くも、我國の如き禁令を見ず、殊に濠洲の如きは婦人に選擧權を與へて其結果甚だ良好なりといふ。我國議員諸君の中にも、江原、根本の二氏の如き過般自ら書を恭して吾等の請願を勸誘せられ、西園寺首相、原内相も亦是に贊意ありと傳ふ。

舊きを棄て、新しきを取に躊躇するは我邦人の弊習にして、變改の權利を有する諸君の如きも、強いて不都合を忍びつゝ、舊法律の下に苦しむこと多しと聞く、何等の頑愚何等の怠慢ぞや。惡しと悟らば暮に朝令を改むるも猶可也况んや施行多年其非の明白なるものに於てをや。諸君希くは理に鑑み情に聽き、吾等の請願書の出づるや否や、一擧に可決通過して吾等の渇望を醫やされん事を

聞くが如くんば諸君は諸君の寵愛する婦人をして議會を傍聽せしむるを常とし以て帝國立法部の壯觀を窺はしむると共に其政治思想をも養はしめんとすと。諸君が若し一方婦人を愛する事斯の如く深厚にして、而も他方吾等の請願を一笑に附し去らんとするが如きは實に大なる矛盾也。吾等は賢明なる議員諸君にして、萬々斯の如き滑稽なる矛盾の行爲なかるべきを信じて疑はず。議事益々滋からんとして時候人に宜からず、切に諸君の自愛を祈る。

獄中のマダム、ローラン

マダム、ローラン略傳

佛國革命の最も有名な殉難者として誰れでも知つて居る、マリー、ジヤンヌ、ローランは一七五四年三月巴里に生れた。父は投機で失敗した彫刻家であつた。幼より空想に耽る性で好んで讀書をした。就中プリユタークは此幼き思想家をして生涯の共和主義者たらしめたのである。十一歳の時彼女は僧庵に入て一年を送り、次の一年は祖母と共に暮し、再び父の家に歸つたそれよりピユツフオン、ボツシユエ等の著書を讀み遂にルーソーに至つて福音を見出した。

一七七五年慈母を失つた後は、彼女を慕ふ人々の温き情をも顧みず、不品行な父と淋しく貧しく暮して居たが一七八〇年の春、リオンの製造家エム、ローラン氏と結婚した。夫は既に四十の坂を越え、粗雜で我儘であつたにも拘らず、彼女は眞心を盡して夫の性格を矯め、不平を色に現はさず、十年の間其良妻として又其一人娘の賢母として盡した。

佛國革命の起るや彼女は其半生の私生涯より起つた夫はリオンの選出代議士となつて彼女を伴ふて巴里に出た。彼女の美容と雄辯と熱誠とは其の燃ゆるが如き愛國心を彩つて、大いに夫の友人達の心を動かした。ブリツソー、ペシオン、ビユゾーの如き有名な首領達殊に最初はロベスピエールやダントンなども絶えず彼女の家に會合した。斯る間も彼女は深き興味を以て總ての事を觀察して居たのである。元來彼女は立憲君主政を好まず、其理想として、純粹な、自由な、そして光榮ある共和政に對して滿身の渇仰を捧げて居た。

一七九二年夫は内務大臣となつた。彼女は此新しき高き地位に在りて啻に夫を助けたのみならず、ヂロンヂスト全黨の士氣を鼓舞するに勉めた。間もなく夫は彼の有名な諫書を呈して免職されたが此書は實に彼女の手に成つたものである。帝政の沒落と共に夫は再び大臣となつたが、勝利は遂に永續せず。ヂロンヂスト黨は竟に兇惡なる反對黨の倒す處となつた。彼女と夫とは恐怖時代の犠牲となり、マラー、ダントンに嫉惡され、四面楚歌の中に、夫は逃れ得たが彼女は捕はれて獄に投ぜられた。數ヶ月の幽囚中彼女は其自叙傳を書いて後に世に公にした。

一七九三年十一月一日彼女の審判が開かれ、同じき八日に死刑を宣告された。彼女は雪白の衣を纏ひ丈なす金髮を垂れて、檻車に上つた。「ヂロナン」送迎つて來たサンソンと云ふ人に介添を頼んで「女の最後の經みを書いて呉れ」と言つた。

彼女が將に嚴かなる「不朽」の影に入らんとした時、胸に浮んだ感想を記さんとて、筆紙を請ふたといふ事は人の傳ふる處であるがセーント、ブーヴは女傑の性質としてあり得べからざる事だと云つて居る。彼女が『自由』の像を見上げて「嗚呼自由よ、美しき汝の名の下に如何ばかり多くの罪惡が行はれたか」と叫んだのは有名な話である。彼女の死刑は三十九歳の時である

嗚呼自由よ、汝の名の下に幾多の罪惡は行はれたか絶世の佳人に飢え渇く如く慕はれ、竟には其血を以て永遠の榮を顯はした汝は誠に幸福ではないか。希くは吾等をして我日本にも多くのマダム、ローランの出でん事を祈らしめよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人と旅行

安部磯雄

日本人が世界的活動を試みんとするには先づ婦人を世界的活動に適するよう教育せねばならぬ。男子だけに海外殖民を奨勵しても、女子が之に伴はなければ決して成功を見ることは出來ない。然るに我國多數の婦人は因循姑息なる教育を受けて居るから、北米若くは南米の地に新しき運命を開拓せんとする所の男子に嫁する程の勇氣がない。甚しきに至りては我領土内に在る臺灣若くは北海道に移住する勇氣さへないのである

若し將來に於ける日本の發展を考ふるならば今日の女子教育も大に其面目を一新せねばならぬ。先づ女子教育家の爲すべきことは女子をして大に旅行せしむることであらう。男學生には修學旅行といふことがあるが、これは女學生にも行らせるが善いではないか。昨夏日本全國の男學生には滿韓旅行といふことが行はれたのであるが、斯ることは女學生にも行ふべきことである

婦人には殊に航海に慣れしむるの必要がある。航海を恐るゝ樣では到底海外にまで發展することは出來ない。婦人をして航海に慣れしむるには平常端艇をやらせ若くは水泳などを試みしむることも必要であらう。勿論此等の事は獨り女子教育家のみに任すべきことではなくて父兄も亦其心を以て子女を教育せねばならぬ。日本の醜業婦が多く海外に出て行くのは國辱であるけれども、教育ある潔白なる日本女子が國内に蟄居して居る間は如何ともすることが出來ぬ。故に教育ある婦人をして海外に雄飛せしむることは一面殖民事業に鞏固なる基礎を與ふると共に一面醜業婦を滅絶せしむる方法である

運動日誌

福田英子

一昨年平民社同人から、治安警察法改正の請願を衆議院に提出するから私にも運動せよとの事でしたが、私は既に敗殘の身の上、とりわけ淺學非才でありますから、かゝる事は年若き諸兄姉に讓つて私などの出づべき所でないと御斷り致しました。不幸にして其請願運動も徒勞に屬したのは私の誠に殘念に存じた所であります。

然るに今年になつて私は本誌を經營する事となり、婦人の周圍に纏綿せる羈絆を脱する第一着手として、此侮辱法改正の出願をする責任あることを感じ、先年私を勸誘せられました堺爲子、幸德千代子、今井歌子の諸姉と謀り、終に拙き一身を此運動に捧げる事になりました。

先づ先年の例に倣つて請願用紙數百枚を印刷し、中央地方の同志に分つて調印を請ひ、尚衆議院議員を訪問して其意見を叩かんと、一月廿一日堺夫人は國許の母上御病氣の爲めの御歸郷を一日延べ、私は頭痛を押して、折柄の雨を冒し今井姉と共に早朝麻布に江原素六氏を訪ひ、來意を通じました處、今年は是非解決を見る樣盡力すべしとの厚意を洩されました。夫から衆議院に根本正氏を訪ねましたら、約束の時間を過ぐるも遂に登院せられませんでしたから、單に竹越與三郎氏に刺を通じたのみで歸つて參りました根本氏は先年來熱心な贊成者で、今年も請願の紹介をして下さる筈です。地方からも調印濟の請願用紙が續々到着致します。まだ御送りにならない御方はもう期日も切迫して居りますから何卒至急御返送を願ひます

海内時事

◎工女の同盟罷工

兵庫縣宍粟郡宍粟製糸會社の工女三十五名去る十九日より同盟罷工をなし候由快き事に候。原因は去頃某工女疾病にて退社歸郷致し候際、數名の親友門外に送り出で候を監督人が見付けて立腹致し、工女等に各六十錢づゝの科料金を課し候を憤慨せしものに候由、人情を無視したる無法なる監督人に對し、可弱き身を以て反抗の聲をあげ、同盟罷工を敢て致し候心根、誠に吾等の嘆稱する所に有之候。吾等は總ての工女諸君が常に此氣慨を持して、橫暴なる男子の迫害に拮抗すると共に他の男子勞働者が常に「同盟罷工」の武器を以て資本家と戰ひつゝあるが如く、毎に貴重なる此武器を使用して、其雇主と戰ふべく心掛けられん事を切望致し候。

◎大阪の同盟罷工

大阪府下東成郡なる大日本精糖會社の職工百五十餘名は、去十五日正午過より同盟罷工を企て候。原因は今回東京大阪の二精糖會社が合併致し候てより、職工の爲めに種々不利益なる新規則を作りしに依り候。其日の夕方には三百餘名篝火を焚きて野外集會を開き、會社に向つて示威運動を試み候ひしかば、巡査總出に鎭撫致候も其甲斐なく、翌十六日の午後三時に至り、會社は遂に屈服して職工の要求を容れ、茲に目出度く落着致候由、吾等は深く此ストライキの成功を祝するものに御座候、社會主義者が何をぬかすなど、資本家が空嘯き居り候間に、足もとより俄に鳥が立ち、機運は至る處にストライキを生み候て、勞働者は煽動せらるゝ事なく堂々の陣を以て至る處彼等の雇主と勇ましき戰闘を致しつゝあり候。

◎本年度の豫算案

本年度の豫算案は曖昧なる說明付にて過日公にせられ候。議員は未だ出でざりし前既に盲從の膂を固め候由。吾等は其歳入に於て危懼の念を挾むと共に、歳出の内容には今更ながら驚かざるを得ず候之を昨年度に比較致候に大藏、文部が減額せし外、何れも多少の増額あるは所謂戰後國力膨張の結果にも候はんが、就て陸海兩省の著しき増額を見れば、軍國主義が何如に橫暴を極めつゝあるかが能く了解せられ候。此兩省の經費を合すれば、約二億圓にして、實に歳出總額の三分の一に達し候。斯くて戰局終を告げて二年を閲し候今日猶吾等は不相變非常特別税を徴集せらるゝにて候。嗚呼吾等平民は紳士閥の賭博的遊戲の爲めに一年は一年より塗炭の苦しみをいや増し候也。

◎板垣退助氏の活動

板垣死すとも自由は死せずと叫ばれ候板垣氏は徹頭徹尾血あり涙ある高士に有之彼の政界狐鼠の輩より遠ざけられ候は寧ろ當然の事にして氏の眞價は實に茲にありと存候。氏齡已に七旬を越え候も意氣の壯なる尚昔日の如く、今や身を挺して社會改良運動に盡さんとし、其根據を先づ馴染深き郷里高知に置かんとて準備に怠りなかりしが、今度愈々同地に隱退して専ら同地方の改良に着手せらるゝ由に候。此壯擧は吾等の双手を擧げて歡迎する處に候へ共殊に氏が其運動の爲めにも必要なりとて政治上に於ける婦人の自由を得ん事に勉められ、吾等の請願運動をも大に贊助して、政府を說き議員を叱せられ候は吾等の感謝に堪えざる處に御座候。吾等は切に氏が運動の成功を祈り候。

◎所謂論功行賞の不平

近時坊間論功行賞の不公平を唱ふる事しきりに候。軍人を夫とかしづき給へる婦人諸君にも大なる不平は有之候事と察し申候。されど吾等には其不平とか申す事一向に了解致し兼候は心の僻める故に候や。兎に角最初より僥倖をあてに致し置き乍ら、其あてがはづれ候とて只泣かれ候は宜しく候へ共、敢て不平を公々然と喚き立て候は誠に大人氣なく意地きたなく被存候。富籤が外れ候はゞ矢張諦めるより外は有之間敷候。

◎歌御會の歌

今の世に滑稽なるもの多しと雖ども、歌御會の歌程滑稽なるものは未だ多くを見ず候。御歌所の長なる高崎正風なる人が十年一日の如く、同じ想の同じ調の平凡にして御芽出度き歌のみを詠作致され候根氣の強さ、實に凡夫の企て及ばざる處に候。吾等は常に之を以て大宮人が何如に平凡に單調に氣樂に其日々々を送りつゝあるかを推察するに餘りありと存候。

◎日本濟美學校の設立

教育家として令名ありし今井恒郎とか申す人、府下堀の内に三萬餘坪の地をトし理想的國民を養成せんが爲め日本濟美學校てふものを建て、生徒は悉く寄宿せしめ、教員は總て校地内に住居し、校地内には普通體育機關の外、操艇游泳の大池、園藝場、動物飼育場等を設け候由、吾等は第一に其不自然にして貴族的なるに反對致候。操艇を習ひ、游泳を修むるに自然は美はしき河を與へ、雄大なる海を與へ候。山野を跋渉致候へば自ら植物に關する智識は得らる可く候。何を苦しむでかわざ〳〵滑稽なる人工を要し候べき。第二に識者が近來學生を其溫かき家庭より驅出して冷たき獄に籠城せしめんことに勉むるは誠に哀しむべき事に御座候。斯くして人間天眞の性質が枉げられ候は吾等の小き經驗によりても明かなる事に候。さはれ今の世に於て之亦不得止に出で候、吾等は事毎に今の社會組織の不完全を呪はざるを得ず候。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●喜ぶべき現象

永島生

儒教主義の鍵を以て、家庭の裡に押籠められて居た日本婦人が、兎も角も自から起つて世界的思想を要求し、かくて世界婦人たるの位置に進まうとするの時機に到着したのは、頗る喜ぶべき現象といはねばならぬ。

近頃大分婦人問題が喧しくなつて、中には往々世界的思想に觸れて居るものがないではない。けれども是迄の歴史によると、輸入はいつも形式が先きに來て、思想は兎角後れ勝ちである。後れるのではない、これが普通の順序なので、或る意味に於ては、形式も亦た思想輸入の媒介たるを失はないのだ。

で、わが日本婦人社會は、目下頻りと形式輸入に熱狂して居る、一寸手近かな例を擧げると、額に後れ毛の注連を張る廂髮、膝まで細く垂れながしの肩掛、裾は何うでも先づ胸丈けはキチンと合せて其處に襟止、ギラ〳〵と厭らしい星の光を鏤めた手袋、大砲の筒を輪切りにした手温め、凡そこれらの七ッ道具が揃はねば、一人前の婦人として、少々押しが利かぬといふ有樣になつて來た。星の、菫の、戀愛のは久しいもので、或る交際社會の貴婦人は、詩的を素的と間違へて、際どい處でお里を知られたといふ。それにダンスとやら、表情術とやら、大分粹なお稽古さへ、高等教育の學課の中に加へられて、サア來い、巴黎の貴公子でも亞非利加の黑坊でも、美事手玉に取つてお目にかけるといふ、凄まじい未來の夫人の敎養中であるさうな、握手や接吻の心得方も、何れ遠からぬ中一般に行渡ることであらう。

惡口ではない、形式輸入の現狀は、實際斯うなのである、現狀をくさすのではない、寧ろ思想輸入媒介の具の益々完備せんことを祈るのである。

凡そ形式は思想の表現で、思想を形とすれば、形式は其影ともいはうか。影を捉へて捉へ得ず、こゝに始めて形を尋ね思想を迎へ、捨つべきを捨て、取るべきを取つて、之れを己れに同化する。かくてこそ世界婦人の精神は、最も高く、最も大きく、そして最も美しいものとなるであらう。

といふ中に、早くも『世界婦人』の發刊を見る。わが婦人社會の形式輸入は、既に進んで思想輸入を要求して居るのであつた。

こゝに此喜ぶべき現象を祝す。

○次號豫告

△小説　北山おろし	池　雲僊
△西洋禮式	石川　牛山
△男女戰爭史論	石川　旭山
△日本料理	嘉悦　孝子
△短篇小説	二葉亭四迷
△未定	加藤　眠柳
△裁縫	軍地　うら
△園藝	久田　二葉
△未定	小野　有香
△衛生講話	某　女醫
△女傑傳	記者

海外時事

○獨立勞働黨と婦人運動

英國獨立勞働黨は婦人選擧權運動に勢援を與へんが爲め、昨年末一大示威運動をロンドンなる、ホルチカルチユラル、ホールに開催したるが、彼のホルローウエーの獄中にある、勇敢なる婦人選擧運動の戰士コブデン、サンダーソン夫人より『女子には市民たるの權利を拒み、却て資本家には其女子を虐使し、掠奪して懐を肥すの權利を賦與せる所の政府に對し力爭と成功を祈る、男子も女子も此共同の仇敵に對して健鬪せざる可からず』てふ壯烈なる祝詞を朗讀したる後、同黨の首領ケヤ、ハーディ氏は起て下の如く演説したり『全國民の半數(即ち女子)は市民たるの權利を拒まれ、法律に服從するとのみは命ぜられ乍ら、其法律の作製には毫も關與せしめられず。議會の報告に依れば、一千八百九十年來、實に二十萬人の婦人は選擧權を請願しつゝあり、而して最近十二ヶ月に於ける此運動の進歩は實に過去十六年間の夫れに優れり。我獨立勞働黨も婦人解放案を以て次期の國會に於ける最も重要なる綱領とするものなり』。ハーディ氏の演説終りて下院議員ステフエン氏は婦人選擧運動の爲に目下ホルローウエーの獄に投ぜられ居る十一名の同志婦人を、政府が直ちに釋放す可き要求をなすの動議を提出し、パアラフ夫人、デスパート夫人、及びマツクラーレン諸氏の贊成演説あり、滿場異議なく此動議を可決したり。尙右決議に對する贊成演説の中に、下院議員フキリツプ、スキデン氏は、一朝婦人にして選擧權を獲得し、政治的活動の舞臺に入るに至らば、吾人民主黨の氣勢は確に一倍すべしと論じたり。嗚呼我同盟國の婦人運動の何如に盛なることよ。

○スノウデン夫人の演説

獨立勞働黨のウォツトフオルヤ支部は、其勞働館に於て、社會主義の示威運動を催したるが、フキリツプ、スノーデン夫人は社會主義者としての女子の立場より一場の演説を試みたり、其一節に曰く『社會主義は妾が爲には宗教なり、婦人は選擧權を要求す、然り婦人は男子の爲に眞個の伴侶たらんが爲に、選擧權を要求するもの也。男子の伴侶となりて、人類解放の大運動に對し、力ある協力を與へんが爲に選擧權を要求するもの也。女子にして選擧權を獲得する迄は、之れ實に武器なくして戰場に入るに等しければなり』

○英國婦人の覺醒

婦人にして選擧權を獲んとする者は目下英國を通じて幾人あるかと云ふ問題に付き、嚮にアツクキス氏の演説したる所に對し、ブース及びローパー兩孃がランカシヤヤ、及びチエシヤヤなる婦人機業勞働者委員會の爲に辯じたる所によれば、婦人選擧權運動の宣言書に捺印したる婦人は、勞働組合を首め其他數種の政治的團體所屬者を通じて、四十三萬七千人あり。而して數年前國會に提出したる選擧權請願書には、實に二十五萬人以上の記名者あり、之實に英國に於ける一個有力なる政黨にして、國會に數多の議員を選出せる、獨立勞働黨の黨員に比しても、優に十二倍に當る人員なりと云ふ。英國に於ける婦人の政治運動が如何に活氣あるものなるかは以て想望すべき也

○婦人勞働者同盟

昨年十一月五日ルナン氏の飛檄に應じてワラツセイに集りたる十八名の婦人は何れも勞働組合、協力組合又は獨立勞働黨の地方支部其他社會主義團體に屬する人なるが、既に勞働組合を生じ、社會主義の希望を生じ、協力組合を生じ、殊に勞働黨の獨立運動を要求するに至りたる經濟的機運は、此會合に於ても十一名の多數の贊成を得て、婦人勞働者同盟の設立に決し、假委員を選擧したりと云ふ

○過半數の勢力

コンテンポラリー、レヸウに記載したるグレゴリー氏の、世界に於ける白晳人種、男女別の統計は下の如し(幼少年者をも含む)

國名	男子	女子
英國	二五、九二三、三二一	二六、六九一、六七四
北米合衆國	三四、三四九、二〇七	三三、六四一、七八一
歐洲大陸	一〇五、〇七七、六四〇	一〇八、五九三、一三八
南アメリカ	一七、七八一、三一四	一七、四九五、九四一
露國	六三、三三九、八八六	六三、二七六、五四七
合計	二四六、四七〇、八八六	二四八、六九九、〇八〇

即ち割合にすれば男子百に對する女子百〇一となる、合衆國に於けるニグロも之と同一なる割合を示せり。亞細亞人種に付て言ふも、日本は男子百〇二に對する女子百にして、印度、錫倫は男子百〇四に對する女子百の比例をなせりと云ふ。今萬事を多數決にて定むるとすれば、少くとも歐洲及米國に於ては、女子は過半數の勢力なれば、政治上の權利より全く之を除外せることは實に重大なる問題と云ふべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

西洋禮式

石川半山

○喰ひ逃げは失禮　日本では宴會をして、人を招いても、來て食ふ時は、盛に食ふが、それッきりで挨拶に來ると云ふことはない、喰ひ逃げ勝手次第の無禮講である、昔時封建の時代にはそんなことはなかつた。客に招かれた時は、數日の後に於て屹度挨拶に往ッた者だが、維新以後書生流の亂暴が風をなして、今日では外務大臣の夜會に招かれても、其後に挨拶に往く者は三分の一もないと云ふ事である。

昨年の七月、毎日新聞で園遊會を催し、千五百人ばかり朝野内外の貴女紳士に御馳走をしたが、其後に挨拶に來た人は、西洋人の外は、百二三十人に過ぎなかつた。

然るに西洋ではコウ云ふ場合に必ず挨拶に往かねばならぬ、招宴を受けてから、三四日立つた頃の午後三時から六時の間に訪問をして、主人が若し不在ならば、名刺を置いて歸らねばならぬ。宴會に往て、翌日直ぐに挨拶に往くのは失禮であるが、又三週間も四週間も立ッては失禮としてある。先づ一週間以内に往くことになッて居る。

○名刺を折ること　人を訪問して名刺を出す時に、其の右の下方を少しく折るのは、西洋の風であります。或る人は左方の端を少し縦に折て出す者もありますが、大概は右の下の隅の所を折て出します。之れは自分で來たといふ證據を示す意味で、折て出さないと、他人に名刺を托したことに取られても仕方がないのです。

○名刺の形狀大小　紳士用の名刺は形も寸尺も定まつて居る日本人の用ふる名刺は、一般に過大で、特に衆議院議員の名刺などは端書大の者もありますが、アレは頗る可笑しいです西洋でアンな大きな名刺を出すのは、商賈人が引札の代りに、コチ〳〵何か書て居る者で、紳士の名刺にはアンな大きなのは有りません。

獨逸人の名刺は、割合に大きい樣ですが英米佛の諸紳士は、何れも小さい名刺で品の良い者であります。

○喪に居る人　喪に居る人は、黑い服を着て、名刺にも黑い輪を箝めて居ます。黑い輪を箝めて居る名刺の持主に對して、今夜芝居へ一所に往かないかとか、一寸一杯飲に往かうなど、言ふことは禁物であります。婦人でも黑い服を着て居る人を見ると、必らず話に遠慮をしなくてはなりません。

私が米國で逢ふた一貴女は、三年前に自分の最愛の娘を亡くしたと云ふので、其悲哀を忘れかねて、尚黑い服を纏ふて居ました、コウ云ふ人に對しては、常に注意して話をしなくてはなりません。

ワシントン府で有力なるシドモア孃の午餐會に招かれて、フエアチャイルド夫人と一所に午餐を取りましたが、此のフエアチャイルド夫人は有名なる電話發明者グラハム、ベル氏の愛孃で、黑い服を着けて居ました。それはグラハム、ベル氏の父、即ち此フエアチャイルド夫人の祖父が死んで、其喪に服して居たのですが黑い裝飾のない服を着て居ても、天禀の麗質で、中々美しく見え、且つ談話に巧であリましたから、シドモア孃の快活な態度と談話と相待て、ツイ釣り込まれて私が種々の談話をなし、途中で彼女が喪に居る事に氣が附いて、心の中でハットと思つた事がありました。

こほりゐし木の白瀬いはこえて清瀧川に春風ぞふく　眞[illegible]

放棄せる女權

門田稻葉

億ふに歴史を繙ける者は、如何に我が婦人の屈辱に泣きしかを知らん。而して現社會の半面にも亦、必ずや、我が姉妹が奴隷的虐遇を受けつゝあるを知らん。古往今來、邈乎幾千年の間、彼の獰々の如き男子の翫弄物と成り、彼の惡む可き富豪貴族より物質視せられ、屈辱に唖び、蹂躙に任せ、頤使に動き、宛然猛鷲に捉へられし雀の如き、地位境遇に在りしことは、明かに歴史の既に之を證し、社會の眼前に之を證する所也。婦人は此の如く奴隷視せられ、猶は且つ之に甘んぜざる可からざるの義務ある乎。而して又男子は婦人を奴隷扱ひにするの權利ある乎、腐儒の所謂大明鑑なる語は、此權利問題に對して金科玉條に非らざる可く、乃ち余は深く我が歴史を作れる故人を怨み、之を蹂躙するの現社會を敵とするものなり。

然れども、既往の事に結く默て、彼の男女同權の論一度び社會に提唱せられて以來、作今今日に至り、婦人の如く、豹變の如き男子は、徒らに浮濫に心醉するものと爲し、之を祁けて女權は終に擴張せらるゝにすして已みたりき。然れども、嬰兒人の世、胎内を出づるに方り、男女兩性相異るが故に權利義務の生じたるに非らずして、兩性必ずや均等の權利あり、義務ありしを疑はざるを以て、所謂女權擴張なる語は、甚だ妥當を欠くの嫌ひありと信ず。即ち婦人の屈辱や、奴隷扱ひや、女性が胎内より之を忍ぶ可く、而して又之を甘んず可く、事有したる運命なりとせず即ち已むを得なくも否らざれば、寧ろ女權復舊と云ふの至當なるを知ると同時に、猛烈なる運動を復舊問題に爲さゞる可からず。既に斯の如しとせば、男子をして一日も女權を蹂躙せしむる能はざる也。然れども此問題を解決するに際り、是に一の所謂先決問題の横はり居るを知らざる可からず。我が姉妹が自ら其權利を放棄しつゝあること即ち是れにして、何故に其權利を放棄するに至れる乎は一大問題也。

我が姉妹が屈辱に泣き、奴隷扱ひに甘んじ、蹂躙するに任するは、事の是に至らしむる所以存し、是れ我が同志の大に絶叫する根本問題也、而して世の新聞記者、乃至は宗教家、教育家等が、深く其根柢を究めずして、徒らに侃諤する問題也。然らば即ち、根本問題とは何ぞ、曰はく他なし、婦人が其權利を自ら放棄するの已むなきに至る原因也。一は即ち社會組織の不完全なると、一は即ち家庭組織の不完全なると是也。若し夫れ、依然として私有制度、奴隷制度が行はれ、細胞の膏血は、恣に富豪貴族の吸收するに任じ、彼等は其毒手を以て細胞を泥犁に捨すを敢て與しまざるに於ては、永久に女權復舊の不可能なるは勿論、淫蕩の風社會を俗し、濁沌たる濁流は滔々社會に漲らんとす。

一擲千金、奢侈を極め、資本家が一般労働者の手を操り、彼等を活地獄より救ひ出したりとするも、此の可憐なる姉妹に對して、社會に一縷の慰籍、一抹の同情をも與へざれば、直ちにして縦ひ凍餒の境に陷り、再び最も厭ふ可き賤業を營むに至る可く、又此世からなる地獄の如き工場の獄に脊の汗を流す工女も、一度び之に救はれて其運輸に安堵の胸を撫で下すと雖も、運命の手は再び彼等を捉し去り、更に更に恐る可き賣春婦と化する者なきに非らずや。宗教家は如何に祈りて社會改良に努力するも、武士は食はねど高楊枝を咬みて忍ぶ能はざる也。然かも頑者輩下の新聞紙が、今更の如く之等の諸問題に對して、殊勝らしく研究云々す、然々斯の如くんば、婦人は終に闇より闇に葬らんとする也。

更に貴族、富豪なる者の家庭を見よ、毎に炊金饌玉に飽き、錦繍綾羅を纏ふと雖も、女子は到底彼等の爲に、檢束を脱する能はずして、唯だ瓶中の花として眺められ、果ては色慾の犠牲に供せらるゝのみに非らずや。而も中流以上の家庭にして、其の所謂愛を以て形づくれるものありや。是れ自由を奪れたる強請的結婚に始り、檢束の徑路を辿り來り、屈辱奴隷、蹂躙に終るものに非らずして、何ぞ。斯の如く觀じ來れば、兩親、兄弟、姉妹、良人、舅姑、是れ皆或る場合に於ては、正に婦人の仇敵たるを失はず。故に余は沙上に高樓を築ける庭の道德を云爲する腐儒、道學先生の罪をも大に責めんとする也。

余等の最敬する福田英子女史、還大に「世界婦人」を發行し、天下に呼號せんとするもの、一擧此奴隷制度を打破せんとするに外ならず我が姉妹は女史が顯せる旗幟の下に聚せ來り、自ら放棄せる女權を復舊し、眼中色と慾との他わらざる男子をして、後に瞠若たらしめよ。」

短文、短歌及新體詩を募集します

▲短文　清新の趣味ある短文を募ります。嬉しき事、悲しき事、腹の立つ事、何でも郵便端書に明瞭に記して投稿して下さい。

▲短歌　新派、別に何等の制限をも設けません、しかし、あまり貴族的臭味のあるものは取りません。

▲新體詩　調の何如を問ひません。但しあまり長いのは嫌です。艶なの、優しいの、凛としたの、雄々しいの殊に淸新の氣を帶びたのを歡迎します。

毎號の原稿締切は、五日と二十日です、用紙は何でもよろしい、端書は殊に郵便でよかろうと思ひます。婦人諸姉の振つて御投稿わらんことを切望いたします。

衛生に關する質問を募ります

本社では此度或る有名な某女醫に御依賴しまして、本紙上で衛生に關する諸般の御話をして頂くことになりました、同姉は主として皆樣からの御質問に應じて御話しをなさるとの事でございますから、皆樣は御遠慮なく平生御疑ひのある處を端書なり封書なりで御質問になる樣に願ひます。此頃は氣候が不順な爲め全國各地で病氣が流行致しますからこういふ立派な顧問に依つて平生の御養生をなさるのが肝要と存じます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

虛榮の道行

有香

まだ神樂坂は松の內、何家のカルタ會の歸途にやあらむ三人の女學生、吹き荒む風に髮のほつれの亂れがちなるさへあるに、例の廂髮の吹き飛ばされんとすること幾そたび、その度に震へる手先き——見よ星の疎光に閃く銀モール、脫がばげに廂を撫で居る格好、唯憫しとやいはん。撫で〻見てほつと一息、やがて思ひ出せし如く、急に頭を縮めし顏面の、今夕は晴れの場所とて殊に白う裝へるを、あはれや下弦の月の斜めに映じて、物凄きばかりに唯蒼白う。

頭の周圍！な怪みそ、そは美はしき襟卷なり、唯襟卷のみ。柔かに嫩なる毛の如何に暖かなるらん。三人とも言ひ合せたらんごとく、暫しは無言に、其蒼白き顏面を毛卷に埋めて、唯廂髮の風に弄らるゝに委すのみ。

軈て交番の前に來りぬ、一人は別れを告ぐるやすた〳〵と左に折れ行きたり。二人は猶無言のまゝ眞直に矢來の方へ向ふ。此方は別に急ぐともなく、蓮步例によつて楚々たり。時に何におびえやしぬらん、とある家より洩るゝ小兒の叫び聲、突然の襲擊に二人は面喰ひつゝ、互に顏と顏——。

「ねーあなた、松子さん、暖いでしよう、あなたの襟卷は狢なの？。妾のはネ、一寸見て頂戴な！、松子さん、黑貂ですよ之れは子妾のお父樣が去年の夏樺太へ御用で行つた時に、五十圓で買つて來て下すつたのよ。まだ樺太だから五十圓位な安い値で買はれたんですの、當地なんかで買はふもんなら、何の位高く取られたか知れやしないつて、お父樣が言つて、よ。妾嬉しくつて嬉しくつて子。柔かいでしよう、だから暖かいんですもの。」

「ほんとに竹子さん、美くしいのネ。よくあなたに似合ふことよ。妾のも子、狢でしよう、ですからまア暖いのよ。歲暮に母樣を引張つて行つて五二館で奢つて貰つたのよ。それは〳〵種んなのがあつたけれど、孰れも妾の氣に入らないの、妾口惜くつてネ、折角樂んで來たのに一寸も之れはと思ふのがありやしないんだもの、妾腹が立つたからもう歸らうとしたの。すると一つ桐の箱にあるのを見付けたのよ、ほんとに美くしかつたんですの、それは今の之れですの。妾嬉しかつたの何のつて、艶が良いでしよう良い筈ですもの六十圓といふ札でしたもの。母樣は贅澤だなんてお言ひだつたけれど、妾無理に買つて貰つたのよ。艶が良いでしよう！。妾何處へ行く時でも之れして行くの、暖かいことよ。」

「ねヱ松子さん、梅子さんは今夜よほどおめかしだつたけれど、あの白い羽では寒かつたでしようと、妾同情してよ。あれで梅子さんは餘程高くとまつてお居だけれど、震へてたじやありませんか。夏なら羽でも涼しいでしようけれど、この風なんですものネ、妾全く梅子さんに同情してよ。だのに彼の方は妾らの親切をも構はないで、お父樣が何處で買つて來たの、何程出したのつて法螺ばかり吹いてよ。何んで彼んな物が其樣に値るものですか、嘘ばつかり。」

袴の紐のいつしか解けて、地に曳けるをも氣付かで、御喋舌行く勇ましさ。

まさに之れ虛榮てふ動物の道行き！。

新刊紹介

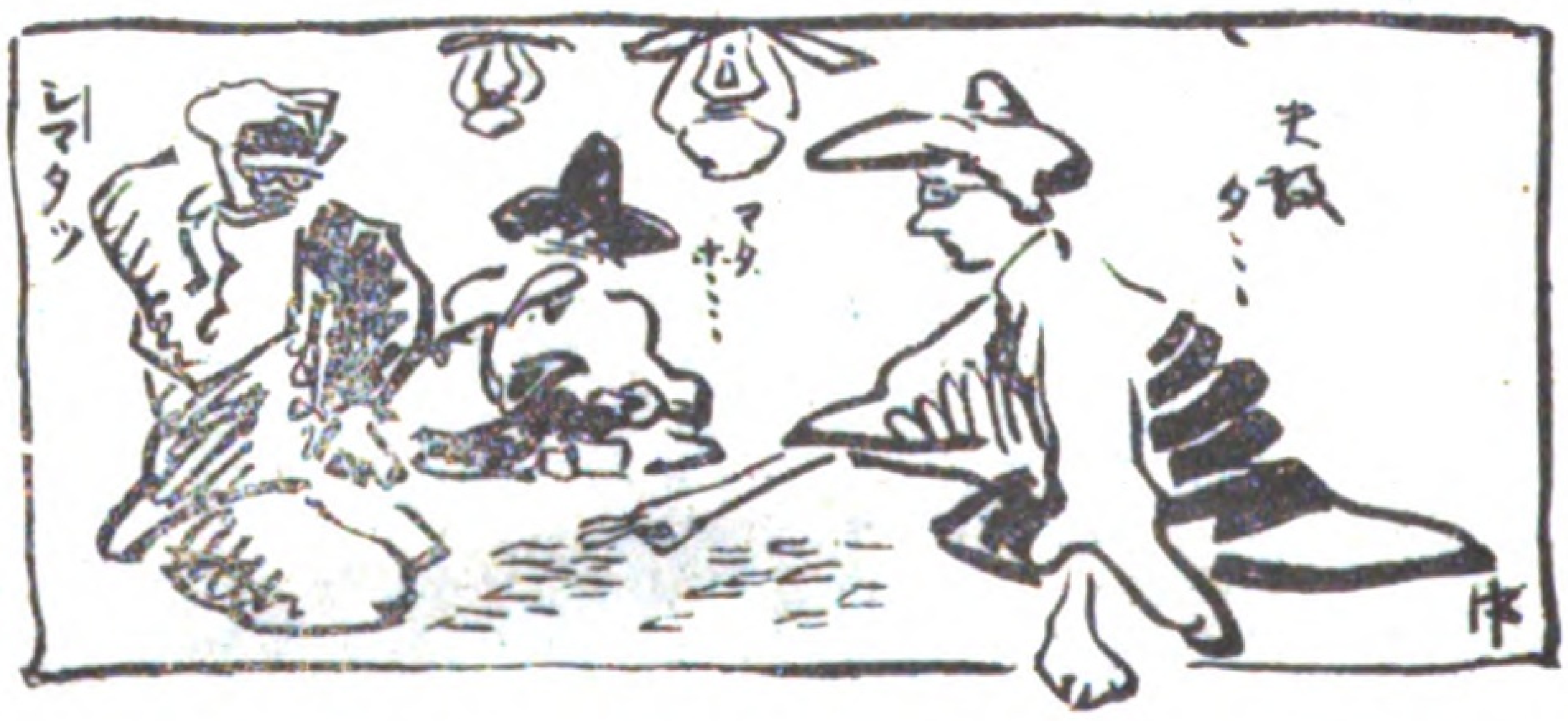
▲文壇獅子吼（久保天隨著）　赤門文士の粹なる久保文學士の獅子吼にも似たる氣燄錄にして、多く帝國文學、新文藝等に載せたる舊稿也、永久的の論文少なしと雖ども、孤文に蘊蓄深き氏の事なれば、文章として讀みても宜し。（本郷區千駄木林町日高有倫堂發行、定價四十五錢郵稅六錢）

折にふれて

神川松子

△我世の春

思ふもいぶかしきは我世の運命かな。昨日夢みし有情の花も、夜半の嵐には堪ゆべくもあらず。落花の前に身の無常を歎息つ孤女の悲しみ、誰ありて語らむ？！思へば花なき野邊に獨り枯れ行く我身かな。あゝ靑春人に在りて夫れ幾時ぞや、花笑ひ鳥歌ふ春の夜の夢も、悠久の宿りを誓ふべくもあらず、愁風情なく夢を破つて、斷腸の思ひ唯その人の哀史を語るのみ。



△女人の渴望

獨り風浪荒き巖頭に立ち、悵然として果敢なき我等の命運を思ひわぶる時、一點の光明は突如暗を破つて天涯より來る光明は人生の「自由」なり。われ此光明に接する時胸中一點の曇りあるとなし。今の世の如く暴惡なる權勢の絆に繋がれ進むも退くも思ひのまゝならず、たゞ齷齪と男子の奴隸たらむには、吾等人生の春果た何所にかもとむべき。げにや自由を外にして人生又春あるなし。富貴よりも名譽よりも、爵位よりも、遙かに〳〵吾等の求めて止まざるは自由の境なり。あゝ自由よ、自由よ、惡德虛僞を外の汝こそ何如に氣高くもあんぬるかな。今日よりの吾身は、富貴も、名譽も虛榮もあらゆる私欲を投げ棄てゝ、唯聖なる汝を幾多の人に語らむとは思ふなり。身は汝の使者として、暫時の宿を此世に留め、生ある限り自由を謳歌し鼓吹して止まざらん。汝がためには、無明の宿りも、饑渴の苦しみも、落寞の境も露厭はず、虛榮と權勢との外何物をも知らざる、憐れなる姉妹たちを、那落の底より救ひ出し、自由平等の聖花をかざらしめむとは希ふなり。

あゝ、さらば自由よ、汚穢なき自由よ恒久に求めて止まざる吾等が渴望を憐れめかし。

△革命の星火

妄執の夢に戀人の面影を宿す時はいざ知らず、苟しくも一度情界を外にして、身を革命の魔前に投じては、吾等又何をか憂へ何をか悲しまん。天の示す所われ是を爲さんのみ。斷頭臺上の露もやがては結ばむ花上の玉、自由の園にやその影をやどさむ。光なく物寂しき獄中の宿りも、何五尺の小軀を寄するに足る。さなり、吾等が赤誠の向ふ所又何をか怖れんや。革命の星火、唯吾等の進路を照すのみ。よしわれ獨り敵中幽囚の身となるも吾呼吸の絶えざる限り、吾信念は牢乎として動かざるべし。

嗚呼革命の星火！是れ吾が彩天の想圖吾是を措いて他に何等の希望あるなし。

我が戀

赤烏生

（一）

詩歌に秀才と謳はれて
人を泣かす技あるも
憂き戀眞を餘所にして
盛衰なつくす凡庸の
筆硯よしや雲宿の
纓紱に呼べる同胞の
月雪花の戀寧に
詩人は我の戀ならず

（二）

學、天人の際を貫き
識、江海を掩ふとも
重き口銜を掛けられて
眞理を語る術ぞ無き
識、六合の微を極めし
自由の舌に鐵鎖の
陸帽阿宮を外にして
學者は我の戀ならず

（三）

權勢者の腕を鎖ぢ
非道暴逆殘狼の
萬金美姫を媚びて
巫山の夢路圖かなる
愚者の血を啜り
死に似たる酒宛か
薔薇朱醴の紅唇に
富者は我の戀ならず。

（四）

小賢氣なる山賊か
裝冠裘帶儼然と
國の榮枯や蒼生の
其の可笑さに驕慢る
朱綬被りて紫授帯して
朝廷に立ちて殊勝氣に
休戚などを論ふ
宰相我の戀ならず。

（五）

自己に何の實力無くて
餘榮に生きて徒らに
地位名門を誇りがに
淫逸放恣匹儔無き
爵祿の功名の
國の財帑を盜みつゝ
平民を虐げ惜に驕る
貴族は我の戀ならず。

（六）

胸に掛けたる勳章や
佩劍の音響かせて
道行く人を亞剌比亞の
傲岸、不靈、兇暴の
金釦揮ふエポレット
鞍馬の風姿勇しく
戰場に馳けて悔ゆせぬ
將軍我の戀ならず。

（七）

肩、遠山の翠を描き
玉顏皓齒宛然に
嫦娥の姫に似たりとも
好鮮せるに異ならぬ
頭、綠留の光あり
廣寒殿に在りと云ふ
悟りて見れば、白骨の
美人は我の戀ならず。

（八）

富よ權よ名よ智惠よ
仇涙寄する眞砂路に
落ちて流れて瀬と爲り
泡沫川の水の上に
果敢なきものよ汝こそは
遍ける城廓に似たらずや
岩にせかれて瀬と爲る
浮き立つ泡沫に似たらずや

（九）

共和は我の戀なりと
花の少女のコルデーは
祖國は我の戀なりと
勝保詩人バイロンは
自由に燃えしマノランの
斷頭臺に叫びしよ
狂熱火山の夫れなりし
倫敦獄に叫びにしか。

（十）

あゝ我戀は何なりや
我戀、そは邪揄と
生ひ疑これる現世な
墜ちて砕らん革ねよ
あゝ我戀は唯一ツ
不義と罰惡と醜惡の
ヒューマニチーの淵に
此れが我戀、我生命。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

盲女（山居雑感）

木下尚江

歳の暮の風寒き晩であつた、僕の室の椽先で突然ペンと三味の絃が響いたので、僕は不審の面を上げた、妻は編み物を置いて直ぐ立つて障子を明けた、三味を抱へた年若き盲女の姿が、室から映す洋燈の光で暗の中にアリ〳〵と描き出だされた。

『貴女が小花さんですか』と妻は問ふた、此夜小花と云ふ女按摩が始めて來る筈になつて居たので、妻は斯く問ふたのだ、『否え、私は今日來た越後のゴゼだがの』と盲女は答へた、彼女は此の伊香保には多くの浴客が遊んで居ると聞いてワザワザ此の寒き時分に山を上つて來たのであつた、盲女の背後に尚は十五六歳ばかりの目の明いた少女が一人立つて居た、其れは盲女の爲めの手引きである、此の二人の若き娘は、此の寒き夜風の中を伊香保中歩るいたのだ、然かし今は何れの宿にも浴客は居ない、何れの旅館も雨戸堅く鎖されて人の聲一つ聞えない時に、只だ僕の室のみ雨戸を閉て殘して、燈火に障子の明るかつたので、彼女は始めて撥も絃を拂つたのだと云ふ。

『そうですか、嘸ぞ寒むかつたでせう、上つてお温たまりなさい』と妻は言ふた、『そうかの、上げて貰ふかの』と盲女は見えぬ目に笑を含んで手を引かれて入つて來た、手引きの少女も凍へた手を袖口に入れて、默つて盲女の脇に座つた、僕は炬燵まで來ることを勸めたが、盲女は又直に三味を抱へて調子を合はせ、何か歌ふものに所望は無いかと尋ねるのである。僕は歌を聽く爲めに此の盲女を引き入れたのでは無い、然し彼女は藝を賣つて我が手に我口を糊して行くのである、歌も聽かずに錢を遣るのは却て彼女を辱かしめるようにも感ずるので、僕は一寸返答に困つた。

三味の音色の聽へたので、遠い主家から若い主婦と老女とが、長い廊下に草履の音を急がして來た、盲女は聽者の殖えたので、切りに何か所望は無いかと催促する『義太夫でも常盤津でも新内でも、何でも』と云ふ『それでは常盤津を一つ聽かしてお呉れよ』と宿の老女が言ひ出した、盲女はやがて千兩幟、稲川の妻女の苦節を歌ひ始めた、雪の高野に錬へたる越後女の聲の美くしさよ。

歌が始まると間も無く、障子の外に又た下駄の音がして小花が來た、案内慣れたる彼女は靜に入つて來て主婦と老女との間に坐つて聽いて居る、小花と云ふは歳三十ばかりの盲女で、按摩の術の巧みなので、夏の浴客群集の頃は目の回はる程に忙はしいとのことである、彼女は膝に手を重ねて感心して聽いて居る、盲女歌ひて盲女聽く、僕は此の光景の悲慘に堪え得なかつた。

歌は終つた、盲女は更に何物を演るべきかと催促する『歌は最早充分だから間近く寄つて火にあたりなさい』と僕は言ふた。

茶を啜りながらの盲女の話によれば、彼は此の九月に三人して郷里を立ち出で三國峠を越して上州へ入つたのだ、一人は此の手引の少女、今一人はまだ藝が能く出來ないので、今夜も宿に殘つて居るのだと云ふ、去れば稼人は只だ此の盲女一人と云ふても可いのであるが、收入は三人の間に平等に分配するのだと云ふことである、僕は此の一事に至大な教訓を受けた。

宿の主婦は、此の土地は夏ばかりの所で、冬來るべき所で無いことを懇ろに話して居た『そこの後閑小路に多勢人が寄つて居たから行つて御覽なさい、來たものなら出來るだけ稼ぐ方が可いから』と、小花は其の道筋を詳かに教へてやつた、盲女は又た手を引かれて寒い闇を石坂の方へ辿つて行つた。

『好い聲だ』と皆な擧めて居た。『小花さん、こゝのお客樣が何かお前さんに聽きたいことがありなさるそうだから、話してあげてお呉れよ』と、主婦は笑ひを遺して歸つて行く、『お話なんてありやしませんよ』と小花は直ぐに羽織を脱いで妻の背後へ廻つた、妻は別に按摩を要すると云ふでも無いのだが、先頃此の小花が東京見物に行つて來たとの噂を聞いて、僕の心に一種の好奇心が湧いたのだ、僕は山中盲人が見たる東京の感想を聽きたいので、妻に談じて今夜招くとになつたのである。

『可い處ですね、東京は』と小花は兩頰に笑傾ける、彼女は始めて汽車を下りたる上野停車場の雜閙を語つた、電車の氣持ちの可いことを語つた、靖國神社の鳥居の大きいと云ふとは、兼て聞いて居たが、其の想つて居たよりも大きかつたのに驚いたことを語つた、彼女は鳥居の柱に抱き付いて見て其の太いのに驚いたのである、彼女は洲崎の遊女町に知る人があるので其處に一泊したことを語つた、彼女は遊女町の夜の賑かさと晝の寂しさとに驚いたことを語つた、彼女は小石川の奥の古着屋町にて手に觸れた一枚の着物の氣に入つたので、日に三度も見に行つて到頭其れを買つて來たる嬉しさを語つた、去れど彼女の東京見物は只だ此の如きことの爲めでは無かつた、彼女は實に死んだ弟に逢ひたさに、東京見物に行つたのであつた。

死んだ弟が東京に居るのであろうか、否な、彼女は死んだ弟の聲の聽きたさに、巫女を尋ねて東京へ行つたのである、彼女に前橋の或る商店に十年奉公したる一個の弟があつた、既に十年の年期を終へて尚ほ一年の御禮奉公を勤めて居る時、主人の唯だ一個の幼兒が赤痢に罹つた、彼女の弟が一生懸命に看護をしたので、幼兒の病氣は全快したが、彼女の弟は却て其の惡疫に感染して遂に還へらぬ旅に行つて仕舞つた。

『其れは實に殘念なことをしましたね』と僕は覺えず聲を放つたが『ですが、年期が濟んで居ましたので、御主人樣に御迷惑をお掛け申さなかつたゞけが宜ろしう御坐いました』と彼女は答へたが、僕には其れが一個の大疑問として胸中に殘つて居る。

彼女は四歳で盲目になつた、其れ故弟の顏と云ふものも知らぬ、只だ其聲のみを記憶して居るので、臨終にも逢へなかつた弟の聲を、巫女を通して聽かうと思ひ立つたのだ、『それでは弟に逢ふことが出來ましたか』と、僕は彼女の面を見つめた『そんなことをするもので無いと人に言はれましたので、只だ歸つて來ました』と、言ひながら、彼女は按摩の手を止めてハラヽ落つる涙を押えた。

談語に思はず時が經つたので。彼女は急いで歸つて行つた、氷つて居る道をカラカラと下駄音高く小走りに走つて行くのである、盲人の危ないこと、僕は椽端に洋燈を高く差し出して、見送つて居たが、不圖氣が着いて赤面した、彼女に取ては洋燈も月も何の關係が無いのであつた。

其の翌夜越後の盲女は例の少女に手を引かれて再び來た、洗濯物の爲めに一日滯留したとのことである、今夜は最早歌ふに及ばぬからと、兩女を炬燵に暖まらせながら越後の語を聽いた、彼女は盲女制度の歷史やら、盲女組合の組織やら委しく僕の爲めに話して呉れた。

其の翌晩も窃に待つて居たが、盲女は來なかつた、其の翌晩も遂に來なかつた、彼等は何方を指して出發したのであろう。

諸新聞批評

▲福島民友新聞記者　當年の自由民權を唱道せる女傑福田英子女史の主宰する雜誌「世界婦人」出づ、記者は之を江湖に紹介せんとす。女史の爲人及び其活歷史は其著「妾の半生涯」又は「妾の思出」を讀みたる人の既に知る處なる可く、而して記者亦曾て「景山英子の今昔」として特に紹介したることあるを以て今玆に繰返さずと雖ども予は恒に多大の敬慶を女史に拂ひ居るもの也。（中略）女史今老驅を提げ婦人界の爲め諄々として「世界婦人」を發行す、（中略）縱し主張はありとも、縱し主義はありとも、金本位の他何事をも顧みざる婦人雜誌の多き今日幾何あるは獨り此婦人雜誌あるのみ、闊步す、縱橫俔睨して其縱橫を發揮す、敢て婦人問題の研究者及び婦人諸子に推奨す。

▲通俗日報　明治十七八年の交妙齢の身を以て大阪事件に關係し天下の耳目を聳動したる福田英子（元景山）の發刊にかゝり諸般の革新運動を鼓吹し且開拓したいと云ふので意氣の壯なるを老いて益盛に宛然男兒をして後に瞠若たらしむるものがある。

▲山陽新報　近來女學雜誌の發刊せらるゝもの續々中に最も出色の文字を收むる者は本誌也。要するに婦人の周圍に纏綿する處の法律習慣道德其他一切の事情より離れて其天性使命を研究し而して天眞の生命のためにする所に基きて玆に諸般の革新運動を鼓吹し開拓したいと云ふのが本誌の主張なれば他は推して知るべし。

▲長野新聞　假令死すとも自由は死せずと絶叫したる時代に女傑として知られたる景山英子が主幹する月二回の新聞也。即ち世界的に婦人を革新せんとするもの也。道家生氣縞々たり、現今婦人新聞中にて最も傑出したるものと云ふべし。

▲京都日報　大阪事件で有名なる福田英子女史主幹として婦人の周圍に纏綿する處の法律習慣道德等婦人に壓迫を加ふるものを革新し、婦人天眞の性命を發揮する主旨を以て生れたるもの敢て革新に意ある婦人に一讀を勸む。

▲馬關毎日新聞　發刊の辭に曰く……と絶叫せり巾幗社會の警惕是れより爆發するものあらん。

社告

何時も廣告通りに原稿が揃ひませんで、つひ御約束にそむく樣になりまして誠に相濟みません。今度も長谷川二葉亭さんから總輯締切の前日電報で間に合はない由を申し越され、其後端書で「頭の工合よろしからず毎に違約して何とも申譯なく候へ共、今度も次號へ御譲り願度候、一月廿五日」と申してよこされました、洸雲さんからも手紙が參りまして、旅行中感冒に犯されて執筆が叶はないからどうか次號に廻して呉れといひ越されました。加藤眠柳さんのも、もう來る筈になつて居るのですが參りませんからこれも次號へ廻しますそれから、石川旭山の男女鬪爭史論は平民新聞の方が非常に多忙なので今度は執筆の暇がありませんでしたから、次號から連載する事にいたしました。今度、短文、短歌、新體詩を募集いたしますから皆樣振つて御投稿下さい。衞生顧問も依賴いたしましたから、どうぞ、どしどし御質問の程を希望いたします。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

二月の園藝

新花守

もう之からは「梅一輪〳〵ほどの暖さ」になり、南枝の膨らんだところより美しい香ばしいところを賞せられ、世は

◉探梅の時節　ですが花は又た「いぶせき賤が伏屋にも咲き「痩せ果て、香に咲く梅の匂ひ哉」といふ意氣のあるところも見せて呉れます。それでもし

◉梅の鉢植　を持つてお出ならば、既に花の濟んだのは地へ移してやりなされば水を遣る面倒も入らず梅の爲もよいのであります。又た少し珍らしい種類や之から咲うといふのはなるべく暖い處へ出すやうにし、水も時々與へ薄い水肥も少しばかりづゝ一二回澆けるのがよい。それから庭にあるのは別に手は入りませねど、枝振などを直すのは之からです、なほ

◉鉢々の草花　は霜除の下から芽を吹き成長し初めます故、餘り乾く日は下水か、極く薄い水肥を澆けてやりなされば妙です。そうしてこれ等の中、成長速に特に出すのは

◉早く咲くのは　パンジー（三色菫）及びアラセイトーなどですから、こんなのは今の中に鉢へ移し、少し手入して日當や暖いところへ出してやりなさると間もなく美くしい花を咲きます。それで此花の形はどんなかと云ひますれば、

▲パンジーの花　は五六寸のてふ〳〵のやうな形で、黄と紫との濃淡種々の交り色ですが、又た時に純黄、純白及び黑に黄の點があつて、新種とか何とか評判されるのもありますが、今ではそんな堀り出しものとも云はれません、それで

▲此の花を作るには、秋彼岸過ぎに種子を蒔き秋中に一度植ゑかへ、霜除をして冬を越させるのです。肥料や土質を撰り嫌ひしませねど、東京で云ふと下町の土なら、そう手入當ないでもよく成長しますが山の手ならば、手入程よい花は出來ません、

▲アラセイトー　の花は丁度蝶のやうな形で、色には白、紅、赤、淡紅などいろいろありますが、別に香氣のある藤色亦は樺色のもあります、丈は一尺内外で、蒔時や移植期は、パンジーと同じ時です。

被布の縫方につきて

軍地うら子

被布は老人子供にのみ限り召す物の樣考へられて居りました夫は多くは合羽と同樣に見なして他人の家に着て行く事は失禮の樣に誤解して居た爲であります併し被布は羽織と同樣に普通着て差支なきもの又至極輕便にして寒氣を凌ぎ優美なるが故に之を着する人漸々多くなつて參りました事は幸であります扨て其縫方を見受けますと誠に恰好よき物を召て居る人は少なく御座いますから私は今茲に其縫方につきて申上ます元より縫方の順序などは羽織と異りませんから夫は略しまして竪衿と小衿の具合を申上ます竪衿の寸法は大小人共に衽の寸法と異りません身頃に付けます方にて五分程斜に屆て箆付をし綿を入れざる内に付盈く方よろし竪衿下りは大人は大抵衽下りと同じ小人は衽下りより五分程下げし方よろしく竪衿には綿を入るゝよりも裏打せし方よろしう御座います。

小衿の割出し寸法

小衿の丈は竪衿下りの寸法に二倍し五分を加へしもの、其巾は丈の四分の一が相當であります。

小衿の縫方

小衿を造りますには初め表の切に裏打を致します然る後に裏を内に入て丈を二つ折になし箆付し縫合せますには表を箆通り裏を一帶に一方づゝ縫込ます縫ましたなら縫殘りの切を袂の丸みの如くに三運程縫ひ（裏打の切は縫目より二分殘して裁切ります）角のたゝぬ樣能く糸を縫ひ縮め折目は裏の方に返しましてかくし鏝を掛まして小衿は出來上ります

小衿付け方

小衿の付け具合が中々六ケ敷御話丈ではよく解せないかも知れません併し左の縫方によりませば必らず恰好よく行くと信じます付け方は表の裏打ある方を身頃の裏にあて脊縫の縫代は羽織より少なく二分程に致しまして身頃よりも小衿の方を二分緩目に付ます付ましたなら衿先を留まして裏を表身頃に絎け付るのであります裏衿の折目は箆より即ち表の寸法よりも二分深く打込みまして衿先きより一寸の處まで眞直に致し衿先より一寸の間にて急に屆げ絎けます時には其一寸を釣り後の殘りは衿地を緩目に絎けますと衿先の具合が能く衿が返ります吾妻コートの縫方に習ふて衿を身頃の方に返し裏身頃にて絎け付る仕方もありますが之は衿廻しの具合、品により面白くありません和洋仕立の方よろしう御座ります小衿廻の付け方は何れ次の紙上で圖解を致す考へであります讀者諸姉よりの有益なる御質問は紙上で御答申上ます。

いろ〳〵

たれかれ

△萬綠叢中紅一點

時は一月の二十一日、記者の一人はそぼふる雨を冒し、身に泌む寒さを凌いで、衆議院にまゐりました。恰ども全院委員長選擧の當日で、流石は帝國の立法部、見渡せば七分三分のハイカラ頭や、白髮八分の胡麻鹽頭や、ツルツルテンの禿頭が、或はフロツク或は羽織袴で、欣々然と往返するもあり、得々然として席に控へて居る人もありました。フト傍聽席を見ますと、豈圖らんや、實に萬綠叢中紅一點、婀娜たる美人の丸髷姿が、下の傍聽の紳士と妙な目付で見交はしては、附添の女將らしき人物と囁々して居るのが二組三組ありました。不思議に思つて或る人に尋ねましたら、是れ毎年の吉例で、忙中常に閑日月ある英雄豪傑が其愛妓をして、天晴れ議場に於ける乃公の働き振りを見させるのだそうでございます。これで國事を議されるのですから、實にたまりません。こんな、ふざけた議員をしながら、吾々の頭腦を許さなかつたらと思つて歸つて來ました。

△老政治家の慨嘆

何？貴方の側ですか？なあにちつとも構はんさ、そう言はれゝば僕だつて一言ない。實際吾自由黨員の意氣は全く地に墜ちてしまつたからな。今じやあ、みんな椅子を狙つたり、金に頭を下げたり許りして居る樣の中だ。思へば僕なんかはまあ道中人足の樣なものさ。これ迄永い間の事だから、隨分澤山の相手もあり子分もあつたが、皆一時だ。自分の方の都合が惡くなれば遠慮なしにさつさと離れて、それまではどんな親しい間柄でも、後は野となれ山となれで少しも顧みない。丁度道中人足が一人で、道中をして歩くが、宿々で給銀を貰る樣なものだ、僕の樣なものは到底今の政治界には容れられない。今の所謂政治家などに正義の念もなければ、國家といふ考もないし、無論人民などの事は薩ッぱりも思ふもんじやない。殊に利權の事には血眼で驅けずり廻るが、其本分の議場ではコクリ〳〵やつて居る。中には議員の事より藝妓の機嫌の方が、大切な先生も少なくはない。國家の前途はまるで眞暗闇だ。殊に社會人心の腐敗墮落はどうだ。人民の年一年と苦しくなるのは甚だしいではないか。これを思へば老いたりと雖ども起つて、この混沌を救はなければならない。僕はもはや七十の坂を越したが、なに、元氣はまだ〳〵盛んだ。これからは一層奮發をして、死ぬまで社會改良事業に働く積りだ。とは某老政治家の御話。吾等も此老政治家の嘆きを嘆きとするものであります。

△目白の木枯らし

去る月廿四日の午後でした。私は本誌の第一號を二百部ばかり持ち抱へて、女子大學の學生に配らうと思つて、目白の里へと參りました。大學の停車場からの路々、大學の學生へ此主義ある雜誌を突きつける時の愉快を思ひつゝやつて行きますと、宏大な煉瓦造がヌッと立つて居るので、ハヽアこれが有名な女子大學か、恐ろしく立派なものだと驚かされました。學生が三々五々出入を致しますから、「どうぞ御覽下さい」と一枚づつ配りましたら、綺羅を飾つた未來の學者先生や藝術家先生や又は良妻賢母先生達は、變な顏をして受取つて參りますが、後では一種嘲弄の笑を浮べて顧みますので、ゲッと癪に觸りました。フト今迄門内で此校長と話をして居た三十許りのピカ〳〵した着物を着た氣取つた女の先生が、カン〳〵やつて來まして「あなたは一體何ですか」と突慳貪な調子で訊問しますから妙に癪に觸りましたが「世界婦人社のものです」と答へましたら、何の爲めに配るの何の彼のと聞きました揚句の果、高慢ちきな眼でゲッと私を睨めて「お引取り下さい！」學校の門外で學校外の者が廣告の爲めに雜誌を配るのに、何も餘計な干渉をして、命令的に叱り飛ばす權はあるまいと思ひましたけれども、物騷れない私は何と申していゝやら、訳が見付かりませんでしたから、不平ながら、そのまゝ「引取り」ました。二三丁來て振り返つて見ましたら、平民の血で彩つた赤煉瓦は蒼然たる暮色の中に包まれてしまひました。

伊藤師に答ふ

ひで子

△無遠慮にも、種々と御願ひ申せしに、御懇篤なる御返事を賜はつて難有存じます、殊に未熟を顧みず大膽にも計畫せし『世界婦人』の事に就きて賜はりし御教訓は深く〳〵感謝を以て拜讀いたしました、唯だ平生より少しく考へて居ります事を御返答に申上げて置きます、實は讀者諸君に對する責任とも存ずる次第なのであります。

△貴兄は『天然が絶對不平等に出來て居る』と申されますが、是れには私も全然御同意であります、『世界婦人』にて主張する世界的解放と申すのも畢竟するに、此の天然の不平等のまゝなる境遇に婦人を置きたいといふに過ぎないのであります。

△併し貴兄は直ちに申さるゝでしやう、現在のまゝが即ち天然なれば、何の改むべきものも無いであらうと現に御手紙の中にも『世界其物は神の顯現であつて、たとい塵一つでも非難すべきもの、あるべき筈はないのです、それがわるく思へるのは、こちらの心がゆがんで居るからです』と御說きになりましたが、是は如何なものでしやう、宇宙無差別觀と差別觀とを混同なされたのでは有りますまいか、若し無差別觀、絶對觀より致しますれば、貴兄の所謂『心がゆがんで居る』のも、贅がしたいと言ふきたない私慾も皆な是れ神の顯現ではありますまいか。

△貴兄は又た『婦人の開放と云ひ人間の解脱と云ひ、革命と云ひ、理想の到達と云ひ、決して他に少しもあるのでは無い、心のゆがみを直すことにのみある』と言はれますが、是が社會主義者の諸兄と貴兄等の御說と甚だ隔たる處であります、私共の考へでは若し、絶對觀無差別觀よりすれば萬の物に於て滿足安住を得べく……極端に言へば『ゆがめる心』に於ても……若し相對觀差別觀よりすれば、總ての物に於て奮闘して行かねばなるまいと思ふのです、此の場合には、勿論心のゆがみをも直されねばなりません、而して又た境遇のゆがみをも直されねばならんのです、一軒の家の修繕をするにしても、或者は内より初め、或者は外部に働き又た或者は屋上より直します、而して又た或時は殊に家の内のみ破れたる場合あり、或時は外部のみ敗れたる場合があるのです、人類社會の改革も亦た之と同樣ではありますまいか、私の考へは人は誰でも時と處と自己の才能との聯合すべき方面に働くのが當然であると思ふのです。

△私も、人は皆な心を絶對の境に安住せしめねばならぬと思ひますが、又た同時に身を相對界に投じて世の罪惡と大に奮闘せねばならぬと思ふのです。

△未熟なる女の身で御答へ申しまして誠に御返答を呈した次第であります、何卒御見捨なく御教訓を賜はりたく深く懇願致します。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

新案　第二回の大懸賞珍附錄御覽なさい

婦人世界

二月一日發行　二月號　第二號　毎月一回一日發行　一冊拾五錢　郵稅壹錢　五冊六拾五錢　郵稅五錢　半ケ年分八拾五錢　郵稅九錢

大好評　村井弦齋

娘時代の生活法

△妻は如何に美しくすべきか△心は如何に美くするか△皮膚は如何に美くすべきか△心は如何に修養するか△身體は如何に美くすべきか△深呼吸は如何にするか

娘も妻も母も女學生も皆是非一讀すべき大文字

第二回 前號以上の

大懸賞珍附錄

當選者へ十八金指輪△銀側懷中時計△袖絞り束りぼん

賞品 金帶止△ゴムスポンヂ△新案縞帖△半襟△裏地 總計千三百五十點

●梅を詠じたる古來の名歌

●鼻の形と其病 佐藤ドクトル

●私の感心せる女學生 西田

●輕いお產と重い產（山田）

●わが良人の禁煙實驗

●衛生的結婚法

●齒磨楊枝の使ひ方（大原）

●七十にて單身洋行 矢嶋楫子女史

●小兒癌瘡の話…加藤博士

●我國の最新結婚式…

●三浦博士考案の醬油入…

●弦齋夫人料理談（野鳥、雉子、南京豆料理、飯の出來損ひを直す法）

●名家結婚調●家庭の重寶

●少女欄 益々有益の話がわり升

東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社　（振替貯金參六番）

小牧醫院

內科　婦人科　小兒科

毎日午前自宅診察午後往診

淺草區馬道三丁目　小牧三男

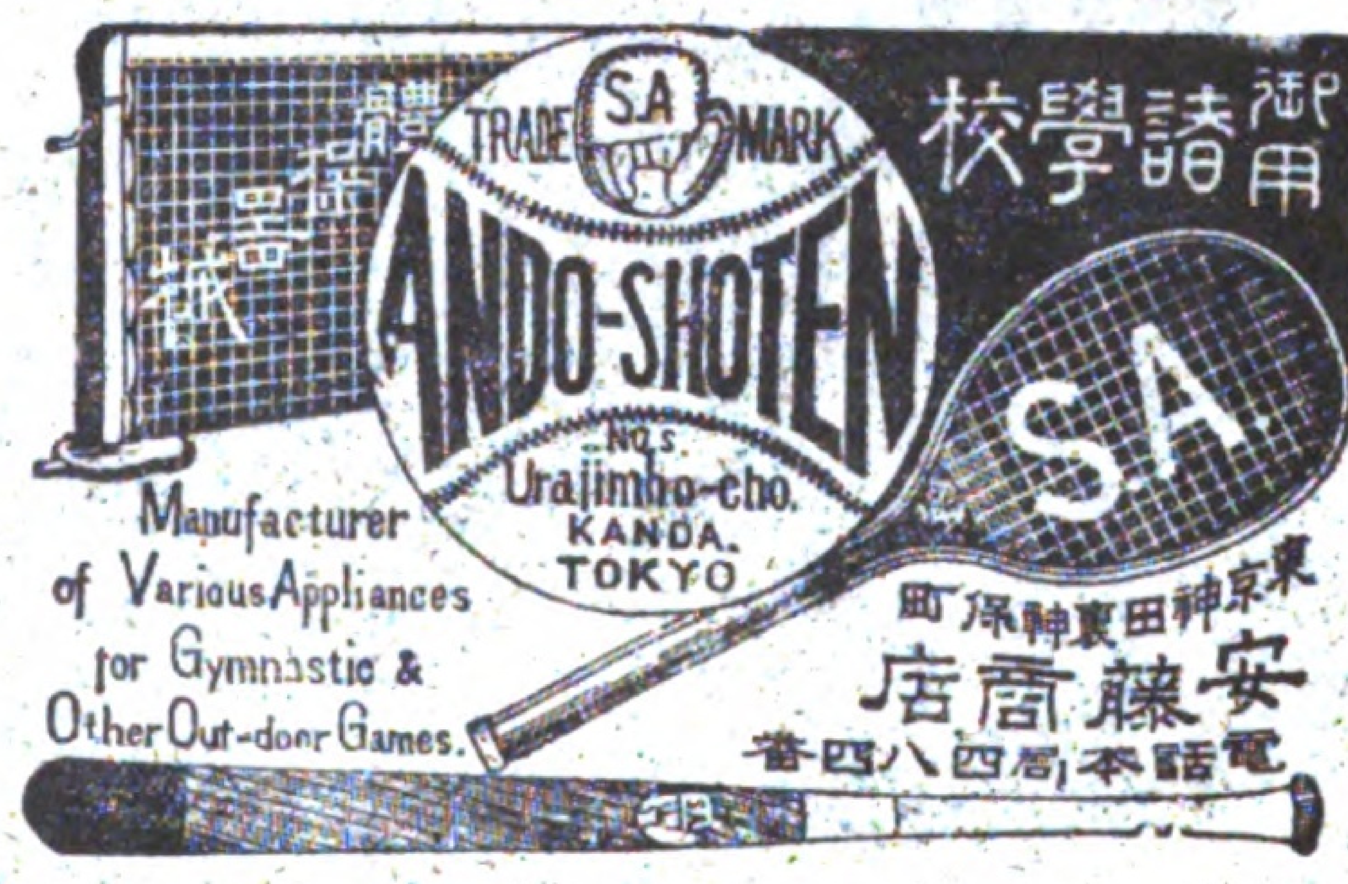
東京高等師範學校教授　文學士　松本孝次郎著

家庭に於ける兒童教育

クロース　菊二百頁　價五拾五錢　郵稅八錢

本書は兒童研攻家として教育界に名聲隱れなき著者が多年研究せられたる學說と實驗とに基き實地家庭に行ひ得らるゝやう極めて平易且切實に談話體を以て兒童教育法を說述せられたる者なれば何人にも解し易く容易に育兒の秘訣を了解するに至るべし されば世の父母たる人は勿論兒童の教育に任ずる教師等には必缺く可らざる良書也

發行所　東京市京橋區築地二丁目　電話新橋八八、二六九三　株式會社　國光社



青山學院教授山田寅之助先生著

○一塊及聖地旅行談　定價五十錢　郵稅八錢

○天國と搖籃　大谷虎君譯　定價三十錢　郵稅四錢

○平和の福音　佐藤廣吉君著　定價四十錢　郵稅六錢

○哲學の諸問題　神學士田中達君譯　定價三十錢　郵稅四錢

○神の觀念　神學士田中達君譯　定價三十錢　郵稅四錢

○人の運命　神學士田中達君譯　定價二十錢　郵稅四錢

○日々の力　根本正君譯　定價皮七十錢　同布五十錢　同紙卅五錢　郵稅六錢

○女子立身傳　根本正君譯　定價四十錢　郵稅八錢

○青春の危機　渡邊勝吉君譯　定價卅五錢　郵稅六錢

○野百合　磐川金敎君著　定價廿五錢　郵稅四錢

○英文スペシメン、オブ、インゲリッシュ、ゲハルス　ミス先生　定價七十五錢　郵稅十錢

目錄出來御入用の方は二錢切手を添御申込あれ

東京銀座四丁目一番地　內外書肆　教文館　（電話新橋二五二六）

福田英子女史著　菊版美本肖像入

妾の半生涯

大井憲太郎等と共に有名なる大阪事件に與せし女傑景山英子は卽ち本書の著者也、彼女の幼少が郷里の才媛として如何に譽高かりしか、彼女如何にして大阪國事犯に與せしか、在獄三年の生涯は如何なりしか、如何にして情人と離れ、如何にして良人を得たるか、更に妻女として赤貧なる、慈母として悲哀なる、寡婦として多恨なる彼女の生活は如何なりしか、本書は、實に其の曲折波瀾、錯節纏綿せる一個の大悲劇を描ける也。

定價卅五錢、郵稅六錢　第四版既に賣切、更に第五版を發行致し候

發賣元　東京市本鄉區本郷千駄木林町　日高有倫堂

●齒科治療●　自午前八時至午後六時

神田區須田町廿六番地　齒科醫　吉瀨才一郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

新築落成移轉

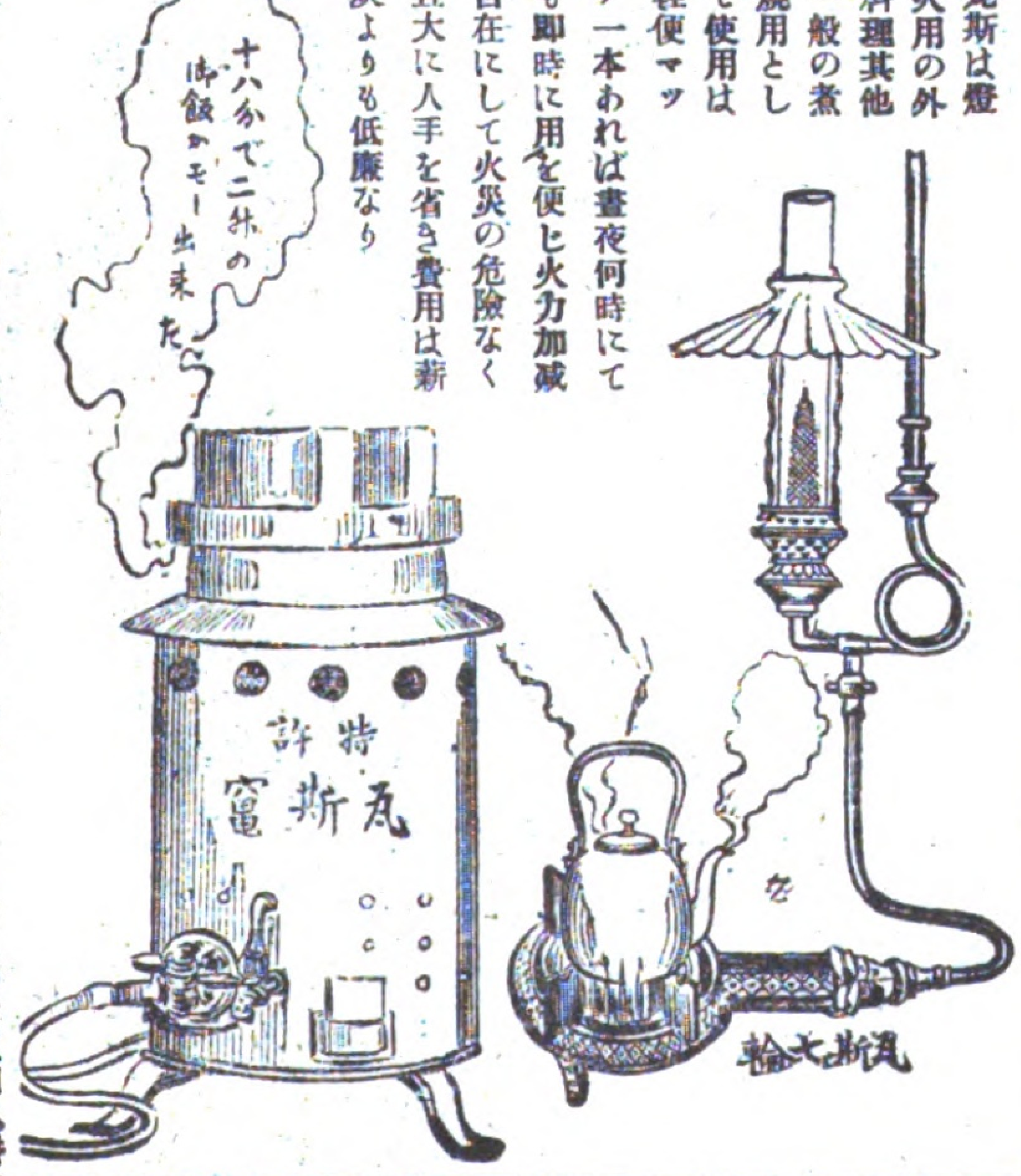
內科　外科　小兒科　病診療

府下淀橋町角筈（水道前）

淀橋醫院　竹下繁太郎

輕便　瓦斯の煮燒　德用

瓦斯は燈火用の外料理其他一般の煮燒用として使用は輕便マッチ一本あれば晝夜何時にても卽時に用を便じ火力加減自在にして火災の危險なく且大に人手を省き費用は薪炭よりも低廉なり



神田區錦町三丁目　東京瓦斯株式會社　電話本局一三番、五四八番、二三〇三番

△一部四錢五厘、十部四十二錢、二十部八十錢

東京府豊多摩郡淀橋町角筈七六二番地

東京府豊多摩郡淀橋町角筈七六二番地

東京府豊多摩郡淀橋町角筈七三八番地

東京市京橋區築地二丁目廿一番地

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY